

真夏の通り雨

時計の針が12時回っても
君はまだここに 現れない
通り過ぎる人を横目で追っても
いつもの笑顔は見えない

照りつける 日差しは 僕の 心をmm 突き抜ける
気まぐれな君はまるで 真夏の通り雨

ダイヤル電話で君を呼んでも
コールの音が聞こえるだけ
つぶやく言葉は声にならない
額に汗がにじむ

浜辺から 南風 僕の 心を mm 駆け抜ける
気まぐれな君はまるで 真夏の通り雨

浜辺から 南風 僕の 心を mm 駆け抜ける
気まぐれな君はまるで 真夏の通り雨
真夏の通り雨



フォーリン レイン

フォーリ レイン
窓越しに見える 銀の雨だれ 心に落ちる
フォーリン レイン
鈍い光が 顔を曇らせ 瞳を濡らす

熱い 熱い胸に
君の想いで 抱いても
時は もう戻らない

フォーリン レイン
音も無く落ちる 銀の雨だれ 心に響く

熱い 熱い胸に
君の 想いで抱いても
時は もう戻らない

フォーリン レイン
虚な日々が 歩道濡らして 雨に煙る

つかのまの笑顔

ありきたりのセリフをただ繰り返してみても
退屈な時間をただもて遊んでるだけ
こんなはずじゃなかったと悔やんでたけど
「次があるさ」と指を鳴らし吐き捨てた
たいしたことじゃないよ あることさ

騙したつもりがいつまた騙されて
わかってるつもりが何もわ からない
泣きを見るのは他人だけだと信じていた
「今度こそは」と拳握り吐き捨てた
たいしたことじゃないよ あることさ

夏の暑い日差しがすべてを
黒焦げに焼き尽くしてしまえば
くだらないお世辞話も
粉々に砕け散ってしまう

でたらめな毎日が 今日もまた始まる
気ままな生き方と 夢に描いても
時間だけが冷ややかに突き進んでく
「明日があるわ」と空を見上げ 吐き捨てた
たいしたことじゃない よ あることさ

夏の暑い日差しがすべてを
黒焦げに焼き尽くしてしまえば
くだらないお世辞話も
粉々に砕け散ってしまう

mm~ つまらいわと 髪をかきあげ
自分だけが 正しいはずだ 言い聞かせてた
つかのまの笑顔はもうない

夏の暑い日差しがすべてを
黒焦げに焼き尽くしてしまえば
くだらないお世辞話も
粉々に砕け散ってしまう

夏の暑い日差しがすべてを
黒焦げに焼き尽くしてしまえば
くだらないお世辞話も

うたたね

うとうと うたた寝したら お日様海に隠れ
空は静かに虹に 染まってゆく
寝ぼけた顔して大きな あくびしたら

mm~ 汽笛鳴らした 貨物船
mm~ 港を 過ぎかか

たなびく煙 夢を運んでゆく
うとうとうたた寝してる君はまだ 寝息たててる

ゆらゆらゆれてる ヨットの 帆先から
ポツカリ お月様 顔をのぞかせてる
そよそよ 夜風は ヤシの葉ゆらして

mm~ 岬に見える 灯台
mm~ 灯りが 僕に届く

渚を流れる 潮騒のメロディーに乗せて
うとうとうたた寝してる君はまだ 寝息たててる

mm~ 汽笛鳴らした 貨物船
mm~ 港を 過ぎかか

たなびく煙 夢を運んでゆく
うとうとうたた寝してる君はまだ 寝息たててる
うとうとうたた寝してる君はまだ
夢を見ている

輝く街

もう 戸惑い捨てて 街へと繰り出そう
さあ 回り始めた 世界は 優しく

車道 ゆるやかに カーブして
ビルの谷間 走り抜ける

Let's play town 君と
Let's play sun 輝いて
扉の向こうが 見え始める

もう 逃げはしない すべてを信じよう
さあ 動き始めた 自分を見つめて

フロントガラスに 反射した
人の心 空へ 舞い昇

Let's play town 君と
Let's play sun 輝いて
扉の向こうが 見え始める

Let's play town 君と
Let's play sun 輝いて
扉の向こうが 見え始める

ネオ イルミネーション

ひとりぼっちじゃつまらないから 君を誘って 夜を飛ばそう
ときめいた心は 指を鳴らして ステップ踏んで もう夢中さ
胸の鼓動は熱いビートに重なり合っ て フラッシュモーション

洒落たポーズで 気を引いても無駄さあの娘は僕のもの
ネオ イルミネーション 回り始めた ミステリーナイト

レッツ ダンスリズムに乗り
素敵な夜を
レッツ ダンス時忘れて 君と踊ろう

ご機嫌な仲間と手と手拍子 ステージの上で踊り明かそう
無邪気な心でいたいならば 訳などいらぬ いらぬさ

夜が明けるまで 踊り続けたい 誰も止められない
ネオ イルミネーション 回り始めた ミステリーナイト

レッツ ダンス リズムに乗り
素敵な夜を
レッツ ダンス 時忘れて 君と踊ろう

レッツ ダンス リズムに乗り
素敵な夜を
レッツ ダンス 時忘れて 君と踊ろう

レッツ ダンス リズムに乗り
素敵な夜を
レッツ ダンス 時忘れて 君と踊ろう

雨の楽園

南の海に浮かんだ 名も知らぬ島
太陽 眩しく 目を閉じる
木陰に寄り添い二人 甘くロマンチックな
秘密の楽園 霏い夏
鮮やか色の 空と海
波打ち際で はしゃぐ声
バームツリーが 風にそよいで
白い砂浜 服を脱ぎ捨てて
目と目が重なり合っ て
焼けた素肌を焦がしてる

渚を横切るヨット 帆を膨らませ
赤道 突き抜け 一周り
水平線の彼方に 気ままな浮雲
無邪気な心に乗せたまま

鮮やか色の 空と海
波打ち際で はしゃぐ声
海に描いた 二人の夢が
波間に揺れて 心煌めいてる
目と目が重なり合っ て
焼けた素肌を焦がしてる

鮮やか色の 空と海
波打ち際で はしゃぐ声
小麦色した君の横顔に
ためらいながら そとと 口づけして
目と目が重なり合っ て
焼けた素肌を焦がしてる
焦がしてる 焦がしてる 焦がしてる

君は勝利の女神

気を取り直しよう一度 あきらめるのまだ早いさ
チャンスはこれから みなぎる力で
握りしめて 汗がにじむ アクセル踏んで加速して
爆音ちらして 体震える

素敵だからとねと君が僕に叫んで
手を振って 合図してる 君は勝利の女神さ

不安な気持ち 弱気にさせる
自分信じて 勇気をだして

「いける」と感じた瞬間 チェッカーフラッグがクロス切った
マシンが唸って 風になった

素敵だからとねと君が僕に叫んで
手を振って 合図してる 君は勝利の女神さ

素敵だからとねと君が僕に叫んで
手を振って 合図してる 君は勝利の女神さ

銀河鉄道の夜

西の空が 赤く燃えて 雲はオパール色
路地に咲いた銀のコスモス 天を仰いだまま
ああ 一番星が輝く 月は近づいてゆく
ああ 銀河の腕君を抱きしめ 夢のランデブー

君と出会った 本当の意味を知る
どんな時でも 君を守ってあげたいと
いつも いつも いつも

地平線が 時を見送る 風は枯梗色
神秘奏でる 巡る天球 君からの贈り物
ああ 指先が光なぞって 星に語り始める
ああ ベルセウス アンドロメダの 愛の物語

君と出会った 本当の意味を知る
どんな時でも 君を守ってあげたいと
いつも いつも いつも

君と出会った 本当の意味を知る
どんな時でも 君を守ってあげたいと
君と出会った 本当の意味を知る



まぶしい夏

環状線から港へ続いている
橋を渡って行けば海が見える
車のラジオにスイッチを入れて
流れる曲と口ずさむ懐かしいメロディー

少しセンチになって ため息よとついた
海の碧さはそのままに 僕を包む

汽笛を鳴らして 遠ざかる船に
手を振って見送る 少年の横顔
澄み渡る空と 潮風をうけて
海岸線を守る 夢を乗せて

大きな地図広げて 見知らぬ街と出会う
不安と期待が胸を 熱くさせる

きっと明日も晴れる どんな時も笑顔で
手のひらかざして まぶしい夏が

きっと明日も晴れる どんな時も笑顔で
手のひらかざして まぶしい夏が

愛のゆくえ

初めての君との hold me tight
傷つけあった事もあるけど
約束したねこのままずっと
愛のゆくえは 誰にもみえない

好きだったと たった一言 紙切れにメッセージ
突然の別れに僕は
何故わからないあんなにも愛してた
もう終わらだなんて
今も君が僕のそばに

初めての君との hold me tight
傷つけあった 事もあるけど
約束したねこのままずっと
愛のゆくえは 誰にもみえない

愛はいつでも気まぐれなもの わかっているけれど
やるせない想いが僕を
ああ失った過去なんてどうでもいい
笑い飛ばしていたい
でも何故か涙がにじむ

初めての君との hold me tight
傷つけあった事もあるけど
約束したね このままずっと
愛のゆくえは 誰にもみえない

初めての君との hold me tight
傷つけあった事もあるけど
約束したね このままずっと
愛のゆくえは 誰にもみえない

初めての君との hold me tight
傷つけあった事もあるけど
約束したね このままずっと
愛のゆくえは 誰にもみえない

おやすみ

街は静かに眠る ぬくもりを残したまま
瞬く星は 君の寝顔つつんで

good night おやすみ
すべては 夢で

ふりそそぐ愛は あなたの寝から
とまどう人の心 やさしくつつんで

good night おやすみ
すべては 夢で

good night おやすみ
すべては 夢で

